

平成 26 年度科学技術振興調整費による実施プロジェクトの評価結果について

平成 26 年 12 月 25 日
科学技術・学術審議会
研究計画・評価分科会
研究開発評価部会

科学技術振興調整費により実施したプロジェクトについては、科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会研究開発評価部会の定める「平成 26 年度科学技術振興調整費による実施プロジェクトの評価の実施について」に基づき、文部科学省より事務委託を受けている（独）科学技術振興機構が、外部有識者からなる評価作業部会を設置・運営し、事後評価を実施した。

平成 26 年度評価対象プロジェクトについては、平成 26 年 9 月～10 月に各評価作業部会による事後評価が行われた。

今般、その評価結果を取りまとめたので報告する。

1. はじめに

平成 26 年度の事後評価については、総合科学技術・イノベーション会議の定める「国の研究開発評価に関する大綱的指針」、「科学技術戦略推進費に関する基本方針」、また、文部科学省が定めた「文部科学省における研究及び開発に関する評価指針」等を十分に踏まえた評価を実施するため、平成 26 年 4 月 4 日に開催された科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会研究開発評価部会において、「平成 26 年度科学技術振興調整費による実施プロジェクトの評価の実施について」を決定したところである。

当該事項に基づき、評価対象プロジェクトの専門分野・領域等を勘案して、当該分野・領域の専門家及び有識者から構成される 3 の評価作業部会を設置し、これらの評価作業部会において「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」、「イノベーション創出若手研究人材養成」、「女性研究者養成システム改革加速」の 3 プログラムにより実施した 17 プロジェクトについて、書面評価・ヒアリング評価を行った。

また、プログラムオフィサー（PO）が主査補佐として評価作業部会に参画し、評価作業部会運営に際して主査を補佐するとともに、プロジェクト管理等で把握した状況等の説明を行った。

2. 平成 26 年度評価の実施経緯

各評価作業部会の開催経緯は以下のとおりである。

評価作業部会	評価作業部会開催内容	開催日
若手研究者の自立的研究環境整備促進評価作業部会	評価の進め方等についての確認 評価留意点等についての説明 ヒアリングの実施 ・若手研究者の自立的研究環境整備促進 6プロジェクト	9/16
イノベーション創出若手研究人材養成評価作業部会	評価の進め方等についての確認 評価留意点等についての説明 ヒアリングの実施 ・イノベーション創出若手研究人材養成 7プロジェクト	9/2
女性研究者支援システム改革評価作業部会	評価の進め方等についての確認 評価留意点等についての説明 ヒアリングの実施 ・女性研究者養成システム改革加速 4プロジェクト	10/7

3. 評価結果概要

プログラムごとのプロジェクト評価結果の概要を以下に述べる（詳細は別紙及び資料 2-2 参照）。

- 総合評価
- S. 所期の計画を超えた取組が行われている
 - A. 所期の計画と同等の取組が行われている
 - B. 所期の計画以下の取組であるが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組もみられる
 - C. 総じて所期の計画を下回る取組である

プログラム名	事後評価				
	総数	総合評価			
		S評価	A評価	B評価	C評価
若手研究者の自立的研究環境整備促進	6	1	5	0	0
イノベーション創出若手研究人材養成	7	3	2	2	0
女性研究者養成システム改革加速	4	2	2	0	0
計 (17プロジェクト)	17	6	9	2	0

4. 評価結果の反映

今回、評価を実施する上で評価作業部会委員等から寄せられた意見・コメントについては、今後のプロジェクト管理及び評価のプロセス等に適切に反映させていく予定。

5. 評価結果の取扱

事後評価結果のとりまとめに当たっては、被評価者に意見提出の機会を与え、評価プロセスにおける評価者と被評価者のコミュニケーションの確保を図った。なお、被評価者から提出された意見は、今後の評価方法等に反映することとする。

また、評価結果については、本部会での評価決定後に公表するとともに、総合科学技術・イノベーション会議への報告対象となった場合には、総合科学技術・イノベーション会議への報告を行う。

評価結果概要

1. プログラム毎の評価結果の概要を以下に述べる。

なお、本年度のプロジェクト評価基準については、次のとおり。

- 【総合評価】 S. 所期の計画以上の取組が行われている
 A. 所期の計画と同等の取組が行われている
 B. 所期の計画以下の取組であるが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組もみられる
 C. 総じて所期の計画を下回る取組である

(1) 若手研究者の自立的な研究環境整備促進

平成 25 年度に支援が終了した 6 プロジェクトについて事後評価を実施した。このうち 1 プロジェクトについては所期の計画を超えた取組が行われている、5 プロジェクトについては所期の計画と同等の取組が行われていると評価された。

総合評価	S	A	B	C	プロジェクト数合計
事後評価	1	5	0	0	6

(参考)

◇制度概要：若手研究者が自立して研究できる環境の整備を促進するため、世界的研究拠点を目指す研究機関において、テニュアトラック制（公正で透明性の高い選抜により採用された若手研究者が厳正な審査を経てより安定的な職を得る前に、任期付きの雇用形態で自立した研究者としての経験を積むことができる仕組み。）に基づき、若手研究者に競争的環境の中で自立性と活躍の機会を与える仕組みの導入を図る。

◇充 当 額：1 プロジェクト当たり 2 億／年を上限

◇実施期間：原則 5 年間（3 年目に中間評価を実施）

(2) イノベーション創出若手研究人材養成

平成 25 年度に支援が終了した 7 プロジェクトについて事後評価を実施した。このうち 3 プロジェクトについては所期の計画を超えた取組が行われている、2 プロジェクトについては所期の計画と同等の取組が行われていると評価された。残りの 2 プロジェクトについては、人材養成システム改革が十分ではなく、目標達成度が所期の目標をやや下回っていることから総合評価は「B」と判断された。

総合評価	S	A	B	C	プロジェクト数合計
事後評価	3	2	2	0	7

(参考)

◇制度概要：イノベーション創出の中核となる若手研究人材（博士後期課程の学生や博士号取得後 5 年間程度までの研究者）が、狭い学問分野の専門能力だけでなく、国際的な幅広い視野や産業界などの実社会のニーズを踏まえた発想を身に

付けるシステムを機関として構築する取組に対し支援する。

◇充 当 額：1プロジェクト当たり8千万／年を上限

◇実施期間：原則5年間（3年目に中間評価を実施）

（3）女性研究者養成システム改革加速

平成25年度に支援を終了した4プロジェクトについて事後評価を実施した。このうち2プロジェクトについては所期の計画を超えた取組が行われている、2プロジェクトについては、所期の計画と同等の取組が行われていると評価された。

総合評価	S	A	B	C	プロジェクト数合計
事後評価	2	2	0	0	4

（参考）

◇制度概要：多様な人材の養成・確保及び男女共同参画推進の観点から、特に女性研究者の採用割合等が低い分野である、理学系、工学系、農学系の研究を行う優れた女性研究者を養成を加速する必要がある。

本プログラムを実施し、機関におけるシステム改革に効果的な分野・規模で当該女性研究者の採用を行うことにより、人材の多様化、研究の活性化及び男女共同参画意識の醸成、さらには、機関として本来取り組まなければならない柔軟な組織編成や環境整備等を同時に促進し、総合的なシステム改革の構築を目指す。

◇充 当 額：1プロジェクト当たり1億円／年を上限

◇実施期間：原則5年間（3年目に中間評価を実施）

2. プロジェクト評価結果一覧

「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」(事後評価)

若手研究者の自立的な研究環境整備促進評価作業部会

プロジェクト	実施機関	総括責任者	総合評価	I. 目標達成度	II. 国際公募・選考・業績評価	III. 人材養成システム改革(上記II以外の制度設計に基づく実施内容・実績)	IV. 人材養成システム改革(上記II以外の制度設計に対するマネジメント)	V. 実施期間終了後における取組	VI. 中間評価の反映
社会的知性を備えた卓越した若手研究者育成	山形大学	小山 清人	A	a	a	a	a	b	a
自立・競争的環境で育てる若手研究者育成プログラム	新潟大学	高橋 姿	A	a	a	a	a	a	a
先端領域若手研究リーダー育成拠点	山梨大学	前田 秀一郎	A	a	a	a	a	a	a
エレクトロニクス先端融合領域若手研究者育成プログラム	豊橋技術科学大学	大西 隆 (榎 佳之)	A	a	a	a	a	a	a
産学官連携による若手研究イノベータの養成	名古屋工業大学	鶴飼 裕之	A	a	a	a	a	a	a
宮崎大学型若手研究リーダー育成モデル	宮崎大学	菅沼 龍夫	S	s	a	s	s	s	a

* 総括責任者欄の () 内は事後評価報告書提出時における総括責任者

「イノベーション創出若手研究人材養成」(事後評価)

イノベーション創出若手研究人材養成評価作業部会

プロジェクト	実施機関	総括責任者	総合評価	I. 目標達成度	II. イノベーション人材養成システム改革状況	III. 実践プログラムの開発・運用状況	IV. 実施体制	V. 今後の進め方
北大パイオニア人材協働育成システムの構築	北海道大学	山口 佳三	S	a	s	s	s	s
高度イノベーション博士人財育成プログラム	東北大学	里見 進	A	a	a	a	a	a
先進的マルチキャリア博士人材養成プログラム	千葉大学	徳久 剛史	A	a	a	a	a	a
“ソフトな財=経験”による若手人材育成	新潟大学	高橋 姿	B	b	a	b	a	b
イノベーション創出若手研究人材養成システム	信州大学	山沢 清人	S	a	s	s	a	s
地方協奏による挑戦する若手人材の養成計画	広島大学	浅原 利正	S	a	a	s	s	s
異分野融合型イノベーション推進人材の育成	熊本大学	谷口 功	B	b	b	b	b	b

「女性研究者養成システム改革加速」（事後評価）

女性研究者支援システム改革評価作業部会

プロジェクト	実施機関	総括責任者	総合評価	I. 目標達成度	II. 女性研究者支援システム改革	III. 取組の内容	IV. 実施体制	V. 今後の進め方
輝け、女性研究者！根を張れ、花咲け、実を結べ@北大	北海道大学	山口 佳三	A	a	a	a	a	a
杜の都ジャンプアップ事業 for 2013	東北大学	里見 進	A	a	a	a	a	a
理系女性のキャリア加速プログラム	東京農工大学	松永 是	S	a	s	s	s	a
女性枠設定による教員採用・養成システム	九州大学	久保 千春 (有川 節夫)	S	s	s	s	s	a

* 総括責任者欄の（）内は事後評価報告書提出時における総括責任者